

単
元
名

～日本のあゆみ～

「アジア・太平洋にひろがる戦争」

教科書出版社名（ 日本文教出版 ）

○ 小学校（ 6 ）年 教科等（ 社会 ）

○ この単元で付けたい力

・戦争や平和について調べて、深まった考えをもとにまとめて表現する力。

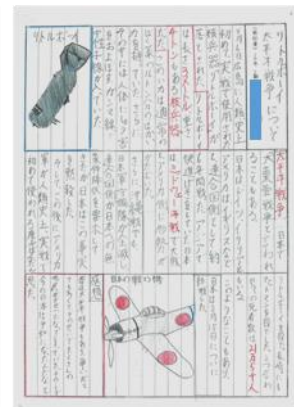
○ 学校図書館活用のポイント

・戦争や平和をテーマに書かれた図書資料を準備する。

・児童が調べ学習を行う際、図書館担当教諭または学校司書等が担任と協力して一人ひとりの調べたいことを見つけるように支援する。

○ 学習の展開（全8時間）

第1次	・1930年代の日本がどのような様子だったかを考える。
第2次	・満州事変の経緯や、事変後の様子について話し合う。 ・日中戦争が起こり、その後、なぜ日本が長い間戦争を続けることになったのかを考える。 ・戦争中のアジアや国内の人々の暮らしを調べ、その時の暮らしについて考える。
第3次	・戦争中の児童や女性の暮らしについて考える。 ・本土への空襲、沖縄での地上戦を調べる。 ・広島と長崎に原爆が投下され、日本が連合軍に降伏し、戦争が終わったことについて考える。
第4次	・戦争や戦争中の人々の暮らしについて、学習したことを基に新聞にまとめる。
第5次	・修学旅行（広島）の「おりづる」を全校の縦割り活動で作る。 ・「おりづる」の活動前に、各学年で戦争についての本を読み、戦争と平和について考える。



【取組みを終えて】

○ 学校図書館を活用した学習における成果と課題

①成果	・6年生の「アジア・太平洋にひろがる戦争」の学習では、全学年の児童に戦争と平和について、「知る」「考える」「活かす」機会を与えることができた。 ・学校図書館を活用することで、「戦争」と「平和」を考えるという目的を共有しながら、それぞれの学年に応じた学習を全校で実践できたことが大きな成果である。
② 児童の感想・ふりかえり	【図書館の本を活用して作った新聞のテーマと後書き】 〈広島・長崎〉 ・この調べ学習をして、原爆によってどれだけ広島の人が苦しんでいたのかなどがわかった。修学旅行でもいろいろなことを学ぼうと思う。 ・被爆者は戦争が終わった後も、「体の傷」だけでなく「心の傷」にも苦しめられたことがわかりました。みんなが絶対に忘れてはならないので、このできごとをたくさんの人に伝えたいと思いました。 〈貞子さんはどんな人生を送ってきたのか〉 ・この本を読んで、もうこのようなことはあってほしくないと思いました。貞子さんのような人たちがたくさんいることを知って、戦争は残酷だなと思いました。千羽鶴の願いが届けばいいなと思いました。 〈太平洋戦争〉 ・日本ではこんなにざんごくな出来事があったとは信じられませんでした。調べれば調べるほど戦争のおそろしさがわかりました。 ・これから、戦争の記憶を後生に伝える必要があると思いました。「戦争」と「平和」について、自分なりに考える力を育もうと思いました。

○ 学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

・児童の調べたい項目や内容を事前に把握し、活用できる本や図鑑等を学校図書館や市立図書館から用意した。 ・学習の中で工夫した点として、児童がメモに自分の考えを書くときは、できるだけ図書館担当教諭が教室に入り、児童への支援を担任と連携して行うようにした。 ・1年生から5年生への読み聞かせやブックトークに使う本は、学校司書と図書館担当教諭で連携し、学習内容を重視した上で学年の目標に適した本を選定した。
